

第5回 四條畷市田原活性化対策本部会議 概要

日時：平成30年7月26日（木） 午後7時～午後9時10分

場所：四條畷市立グリーンホール田原1階 なるなるホール

出席者（敬称略）

相談役：上田原区長、下田原区長、緑風台区長

本部委員：19人（欠席2人）

東 修平、旭 恵美里、岩城 令子、大橋 秀樹、奥田 進久、奥村 博、
相良 佐知子、内藤 壽、中西 洋右、西川 益美、寶谷 敏男、
前原 園代、南佐 幸子、森川 陽子、森田 祥彦、安田 成弘、
山本 敏秀、笹田 耕司、塩見 一郎

事務局：2人 森田、楠

傍聴者：2人

本部長挨拶

議事1 南山城、泉北ニュータウンの行政視察を踏まえた意見交換について

議事2 その他（次回予定）

本部長： こんばんは、第5回四條畷市田原活性化対策本部会議を開催するにあたり、ご挨拶をいたします。

このたび、6月18日に発生した大阪北部地震、ならびに平成30年7月豪雨については、四條畷市内で人命にかかわる被害はございませんでしたが、全国的に多くの方がお亡くなりになりました。まず、そのことに対しまして心よりご冥福をお祈りいたします。また本市では発災直後から災害対策本部体制を敷き各種安全点検、公共施設、通学路の安全確認や避難指示などの対応にあたってまいりました。その際、区長さんをはじめとする多くの団体にご協力をいただきました。これらのごことに対しまして心より御礼申し上げます。ありがとうございました。また、地震が起きたことに伴い市議会に7月臨時議会を開催していただきました。本年度予算の予備費約2,000万円で学校にあるブロック塀の撤去等、そのほか来年度予算を待たずして緊急に安全対策が必要なもの、具体的には、こども園・小中学校・その他公共施設の安全復旧工事、市内のブロック塀の撤去補助制度を作ったことに対する予算、今回の災害で使用した防災備蓄品の拡充などを含む約8,000万

円の補正予算を提出し、市議会の皆様に一昨日の24日に全会一致でご可決いただきました。引き続き本市では復旧に向けて全力で取り組んでまいりたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

また、本来なら7月17日から19日にかけて「地域と市長の対話会」を予定していましたが、延期させていただいたところです。その際、区長さま・自治会長さまには回覧物等にご尽力いただきましたことにお礼申し上げます。

「地域と市長の対話会」に関しましては、中止ということではなく現在日程調整中です。時期をみて開催していきたいと思っておりますので、日程が確定しましたら皆様にお知らせいたします。

さて、前回の第4回田原活性化対策本部会議では「持続可能な公共交通」をテーマに各班で議論していただき、皆様からいただいた意見を集約し田原の意見（田原活性化対策本部）として、7月12日に四條畷市地域公共交通会議あてに事務局から提言書を提出させていただいたところです。

様々な議論をするうえで、前回の会議のアンケートの中には「バスの話が多いなど」の意見もございましたが、本日は、「5月14日に視察した南山城における取り組み」及び「7月3日に視察した泉北ニュータウン榎塚台における取り組み」を踏まえ、「地域が主体となったまちづくり」をテーマに議論したいと考えていますのでよろしくお願い致します。

なお、この田原活性化対策本部会議は、前回同様4班体制で行います。なお、最初に笹田支所長、塩見主任が本日の流れをそれぞれ2班に説明を行いますのでよろしくお願い致します。

それでは、第5回、田原活性化対策本部を開きます。

限られた時間でございますが、本日もよろしくお願い致します。

事務局： 早速ですが、本日の会議の進め方と、到達点等についてご説明いたします。本日の議論していただく班につきましては、事務局で割り振りをさせていただきましたのでご了承ください。

本日の進め方についてご説明いたします。午後8時までの（約50分）時間を使い、班単位で「地域が主体となったまちづくり」の視察を踏まえ「視察先で感じた点、工夫されている点」を付箋に書き出していただき、次に「田原地域で活かせる点」として、「私たちが目指す田原（田原像）」を記入し、それに対し「私たちが取り組む点」をまとめていただきます。

ここで注意点ですが、委員の中には、お仕事などの都合で残念ながら視察に参加できなかった方もいらっしゃいます。

視察に参加された方は、視察されていない方にできるだけわかり易く視察の様

子を伝えていただき議論を進めて下さい。

視察に参加できなかった方は、他の委員の議論をお聞きになり、参加された方になぜそう感じたか、なぜそう考えたかなどを質問して下さい。

これらの内容をお手元にある模造紙にまとめていただきます。

まとめていただいた後、いったん5分の休憩を挟み、会議再開します。

各班から5分間のプレゼンテーションを行っていただき、前回と同様に各班からの質疑を行います。

なお、グループ討議については15分前と5分前、プレゼンテーションについては1分前、その後の意見交換については5分前にベルを鳴らし、残り時間をお知らせしますのでよろしくお願いいたします。

以上、簡単でございますが本日の会議の進め方についての説明を終わります。

なお、本日の会議の内容は録音及びビデオ撮影させていただき、編集のうえHPなどで公開を予定しておりますので、ご了承ください。

本部長： それでは、各班において「地域が主体となったまちづくり」とテーマに「田原地域で活かせる内容」について、議論していきたいと思います。前回の視察の際、帰りのバスを降りた時に少しお話ししましたが、南山城村では外から人を引き付けて経済を回していく地域が主体となったまちづくりでした。また、泉北ニュータウンについては地域での課題を地域の方々の力を活用して解決していく地域が主体となったまちづくりであったと思います。それぞれ方向性は違っていますが、それぞれ価値がある視察だったと思います。

本日は、委員の皆様がそれぞれに視察で感じたことや普段感じていることを班の中で出していただき、班4名の皆様が各自が意見を出し合うことによって、よりアイデアとして優れたものになると思っております。意見をまとめることも大切ですが、個々の意見が生き活きしていることも大切だと思います。委員の方々それぞれが思い描く田原像について存分に意見をぶつけ合っていただきたいと思っています。それでは、議論を開始してください。

～班討議～

- 1班：旭、岩城、西川、南佐
- 2班：大橋、奥田、中西、山本
- 3班：相良、内藤、前原、森川
- 4班：奥村、寶谷、森田、安田

本部長： 時間となりました。ここで一旦5分間休憩とします。

～5分の休憩～

本部長： 会議を再開します。ここから、前回と同じように各班からの発表の後にその他の班との意見交換を行いたいと思います。では、よろしくお願ひします。発表いただける班は、挙手願ひします。

【1班挙手】

それでは、1班からよろしくお願ひします。

～班発表～

1班：1班では、色々な意見を出し合い、考えをまとめました。

①「配食サービス、レストランの運営」

1点目は配食サービスをしたい。班の中では、やるなら、私がやるわ！ という意見もあり心強いと思ひました。

泉北ニュータウン榎塚台では、色々な商店があつた近隣センターの空き店舗を利用し、榎塚台レストランを運営しています。田原では、空き家を利用してのレストラン等の運営ができればいいなあと思ひています。

田原地域には子どもたちへの多笑食堂を運営されていますが、高齢者向けにお弁当の配食をし、そこで働く方々は、ボランティアではなく有償でサービスを提供することにより雇用を生み持続あるものになると思ひます。また、地産地消の視点から田原野菜など田原の食材を利用することにより盛り上がると考えます。

②「人が集える場所づくり」

次に人が集える場所づくりです。空き家や空きスペースの活用になりますが、榎塚台レストランでは、夜の活用されていない時間帯を地域の方が居酒屋風に活用され、パパ達が活用される場所になっています。また、2階のスペースでは子育てサロンに利用され、子育てママたちが集まれる場所となっています。このように空き家を活用して若者、子育て世代、高齢者すべての世代が集える場所づくりができればいいと思ひます。

③「住民同士が関われる楽しいイベント」

あと、住民同士が関われる楽しいイベントです。榎塚台ではハロウィンがされていたように、田原地域でも個々にはハロウィンがされていますが、地域として盛り上がるイベントにしたいと思ひます。田原に来たらこんな面白いことやってんねんで！ というイベントができればと思ひています。

田原地域ではクリスマスキャロルやお月見泥棒などの既存イベントが沢山ありますので、高齢者も巻き込んで盛り上げていければと思ひます。

④「リーダーづくりの必要性」

リーダーづくりが一番大切だと思ひます。田原地域で以前に活躍されていた方々など沢山いますので、田原に必ずいるであろうリーダーを発掘し、みんなで支えていくリーダーづくりが必要だとおもひました。

本部長： 質疑を行います。各班から1班の発表に対して質問のある方は、お願いします。

委員： 先日の視察先での内容がすべて網羅されているように思い、素晴らしい発表であったと思います。

本部長： 私からですが、特に1点目の配食サービスのお話ですが、すごく具体的でした。まず、何を使うかは、地域の空き家を使い、何をするのかといえば、配食サービス、誰が行うのかというと、有償ボランティア地域の方に働いてもらい、材料は地域のものを使うなど「人、物、金」が大体決まっていて、やりたい方も実際にいるとのお話でした。あとは、行動を起こすのみで我々として応援できるのかなあと思っています。

他に、ご意見ありますか。

委員： (完璧)

本部長： すばらしい発表ありがとうございました。続いて2班の発表をお願いします。

2 班： 視察先で感じた点、工夫されている点ですが、大きく3点あります。

1点目が既存ストックの活用です。例えば「空き家や空き店舗など」我々は既存ストックを活かさなければならぬということに気がついた点です。2点目は合意形成を図る上で小地域のプラットフォームとそのリーダーの育成です。そこに気がついて議論しました。3点目としてハロウィンなど小さな成功体験の積み重ねです。なんかうまく行っているなという成功体験です。一挙に大きな成功はできません、まずは芽だしをしようということに気がついた点です。

①「空き地、空き家の活用」

まず、資源の問題ですが、上田原などでも空き家はあり、田原台の中にも集合住宅にかなりの空き家があります。また、田原台の未利用の空き地です。一方、豊かな環境の中、ウグイスが鳴き、蛍が舞うすばらしい環境の中での私たちは何を取り組むかといえば、キーワードとしては「資源を活かしましょう」ということです。

つまり「空き地」「空き家」をそのままにしておくのではなく、活用してくださいということです。土地を高い値段で取引する仕組みではなく、行政として所有者に働きかけるのは考えていくにして、我々が空き地、空き家の調査を行い、行政に働きかける点です。

②「リーダーの発掘」

次の点は、リーダーです。汗をかく人がかきっぱなしではなく、報われるシステムが必要だと思います。まちづくりを前に進めていくうえで、エンジンになるキーパーソンが必要です。この点は南山城や泉北ニュータウンを視察しても気づいた点です。地域で汗をかく人が報われるシステムを構築し、条件を提示したうえで立候補を促し、田原でも公募してリーダーを募るのは、いいのではないのでしょうか。四條畷市では副市長の公募という実績もあることですし。

③「楽しい体験」

それから、3つ目は楽しい体験です。高齢者が楽しく集える居酒屋や喫茶店などをつくることです。お金がないから出来ないよ！ではなく、クラウドファンディングの仕組みを使い、みんなでお金を出し合えば実現可能だと思います。

本部長： 今の発表について、意見や感想などございますか。みなさんが班でグループワークをされている間、相談役の区長さんとお話の中で1班と2班の発表で共通意見としてあるように、リーダーの存在が必要でないかというお話をされていました。待っていても降ってくるものでもないの、今いる方々でやるのか、おっしゃっていただいたように、いっそ募るのかというのも考え方としてはあるんですけど、そこは、今後、検討が必要かと思います。

私としていいと思ったのが、「小さな成功体験」という言葉です。活性化という議論をすると仰々しく大きなことをしないと活性化じゃないという意見をよく耳にします。そうではなく、小さな成功が積み重なり次へ繋がっていくという意味で大切なキーワードをいただいたと思います。ありがとうございました。

次は、3班さん、よろしくお願いします。

3 班： 私たちは視察で参考になったこととして、リーダーの存在が大きかったことを確認しました。補助金などの活用情報が豊富だったこと、イベント企画うまくいけばよりみんなが同じ方向に向くこと、ノウハウを持った専門家の意見・指導などがあった点、また大事なものは人が集まれる場が大事だと感じました。また、失敗を恐れない体制、多世代でアイデアを出し合い実現していく意気込みが大切だということをお話し合い一緒に楽しめる田原にしたいと思いました。これらを踏まえて3班の発表を行います。

①「イベントのプラットフォーム化」

孤立しないで関わりを持ったまちづくりにしたいと思っています。そのためには、小さなことからこつこつと、と考えます。そして、そのためにはイベントのプラットフォーム化です。大きなイベントも行い沢山の人が集まるのも大切ですが、小さなイベントやお祭りをたくさん行い興味のあるイベントに参加していただき、参加者がその小さなイベントが繋がっていけばいいと思い「イベントのプラットフォーム化」を考えました。また、イベントにたくさん参加してもらうためには、広報が必要です。田原通信を使い地域のたくさんのイベント情報を掲載してもらい、SNSやホームページも活用して周知を行い、またグリーンホールに自由に掲載できる掲示板を充実させていけばどうかと思います。

②「若いも若きもルンルン気分のまちづくり」

2点目は、「若いも若きもルンルン気分のまちづくり」です。そのためには、多世代が共に暮らせるまち、子育て場を常設して欲しい。この上にプレイルームはありますが、常に開いていたらいいですねとの意見が出ました。

子どもと交流するイベント企画のほか、健康長寿のまちづくりのために介護予防教室や楽しく参加できるイベントの企画などがあればいいと意見が出ました。

③「緑豊かな田原を楽しむ」

3点目は、「緑豊かな田原を楽しむ」ことです。田原には、ホテルや季節の花を楽しむ場所があります。トイレや休憩用のベンチ、案内看板などを整備し、多くの皆さんに来ていただける場所になればいいと思います。また、その広報も必要です。

本部長： 1班、2班と似ている点もあれば、新しいワードや提案もありました。田原通信の拡充は、支所長が市長室に来るたびに私からお願いしているのですが、今の形になるまでになかなか苦労があったようです。

私はイベントのプラットフォーム化というワードが特徴的かと思いましたが、これまでのプラットフォームというのは人が集まることがプラットフォームであったのに対し、イベント自体がプラットフォーム化しているということが新たな発想で、興味のあるところに行けるというコンセプトがとてもいいと思いました。

あとは、紙媒体、掲示板、ホームページ、SNSを使った周知方法はいろいろありますが、伝える努力は市の方でも苦労しています。今回の災害でも区長さんをお願いして、回覧や広報板への掲示をお願いしていますが、なかなか行き届かないのが現状です。周知方法を充実することにより賑わいを創出するという意見はおっしゃるとおりかと思えます。

3班さんありがとうございました。最後に4班の発表をお願いします。

4 班：私たちの班のまず1点目ですが

①「心の活性化」

私が考えたのは、「心の活性化」です。田原台も高齢化していき、引きこもりの高齢者が多くなってくると思えます。毎日新聞の記事に泉北ニュータウンで坂道を逆手に健康増進という記事がありました。

田原には堂尾池・薬尾寺池までの散歩道があります。その散歩道を地域の人たち、すなわち自分たちの散歩道の整備を行う。また、私の子どもの頃はササユリという花がたくさん咲いていました。そのような風景を取り戻すべく、花などの植栽をし管理も行い高齢者の引きこもりをなくして行きたいことを提案します。

②「人口増加」

目指すところで（班の中でも）「無理ちゃうか」との意見もありましたが、田原地域全体をより魅力的なまちにして人口増加を目指します。

コミュニティバスの話になりますが、トライアンドエラーで車を走らせてみて住民の方に乗ってもらうなど、いろんなことに失敗を恐れずに挑戦してみる事が大切だと思います。

あと、何かをするにしろもっと住民を巻き込んで関心をもってもらうことが大切だと思います。この会議の傍聴席がいっぱいになるくらいいろんな方に興味を持ってもらうことが大切だと思います。

そのほかにはリーダーやコミュニティスペースの必要性などが議論になりました。

③「イベントによる住民のコミュニケーション」

田原でイベントは多いです。その中で一定住民のコミュニケーションが増えてきているのではないかなと思います。様々なイベントに口コミで他市から集客を図る。活性化対策本部会議のメンバーだけでも積極的にイベントに参加しPRを行う。

④「田原の歴史施設のPR」

細かく看板を設置すればどうだろうか。また四條畷市内だけではなく、ウォーキングラリーなど実施し、近隣市の公共施設にもパンフレットなどを設置してもらいPRを行い集客を狙ってはどうか。

本部長： ほかの班とは別の切り口で様々な発想をいただきました。他団体では住民が歩道などを自分たちで積極的に整備を行い成功している事例があります。植栽のお話がありましたが、四條畷市では公園里親制度があり、特に田原地域は公園に限らず積極的に活動していただいています。このような既成の制度を組み合わせ高年齢者の心の活性化に繋げていくと言う面白いアイデアだと思います。

次にトライアンドエラーという話がありましたが、ほんとに大事だと思います。小さな成功をするには、まずはトライしなければ成功はないので、大切だと思っています。

その中で人口のお話がありましたが、最近いろんなところでお話させていただいているんですが、着任させていただいてから市外の方に向けシティプロモーションという形で広報活動を積極的に行ってきた結果、現在3か月連続人口が増えてきています。これは8年ぶりの出来事で、我々も若年層人口を増やしていきたいという思いで、少しずつ取り組んできたことが、このような小さな成功体験が市役所内でも生まれたと思っています。

これで各4班からの発表が終わりました。

私からですが、確かに視察上は一緒だったかも知れませんが、各班ごとに、あったらいい仕組みなどを議論したところ、非常に近い意見が出てきたところです。例えば、人が集まる場所であったり、そこにはリーダーが必要、地域の方が担っていくにも無償ではなく、有償で行い持続可能なものにしていくなどでました。我々として「地域が主体となったまちづくり」を行っていくために必要なキーワードがかなり出てきていると認識しています。次の会議では、実行フェーズに向け具体的に議論を深めていければいいと思っています。各班につきましては、積極的な発表をいただきありがとうございました。

それでは、その他の案件で支所長からお願いします。

支所長： その他案件ということで、よろしいでしょうか。これまで皆様と一緒に、日々の暮らしのアンケート結果などの基礎資料から短期・中長期に課題を整理し、解決に向けた視察を行ってまいりました。

視察先では、地域資源と地域の人材やネットワークを活用した活性化策が展開

されていることや、現地で活躍されている方々に、失敗談も含め直接お話をお聞きすることができ、今後の田原地域の活性化に活かせるヒントが多く学べたと思っています。

また、本日も、地域が主体となった活性化策について熱い議論が展開されているところです。

その中で、先日来、市長と事務局で地域が主体となった活性化策を行っていくうえで、行政としてどのような施策展開が必要か、議論を重ねてきたところです。

お手元に資料番号6、資料番号6-2、資料番号7を配布させていただいています。

資料番号6は田原地域の用途を示しています。色がついていない地域は市街化調整区域で、着色されている区域が市街化区域です。その中でピンクに着色されている区域が近隣商業施設で店舗等が建設できる区域となっています。

資料番号6-2をご覧ください。田原地域で残された近隣商業施設の敷地面積を示した資料です。既存施設の土地面積は約5,000m²、未利用地が約7,000m²あります。

この敷地を有効活用して、田原地域の活性化につなげたいと考えています。しかし、限られた市の財源の中、行政だけの力で活性化を行っていくことは、容易ではありません。

そこで、公金を極力使用することなく、活性化させた事例はないか事務局において調査研究を重ねてまいりました。岩手県紫波郡紫波町の成功事例が優れていることが確認できました。

資料番号7をご覧ください。岩手県紫波郡紫波町で進められているオガールプロジェクトです。

このプロジェクトのすごいところは、公金を使わず、まちを活性化させた点です。プロジェクトの規模は10.7ha（約東京ドーム2個分の面積）の未利用地を開発したのですが、単に開発したのではなく、地域資源を利用し活性化した点です。

もちろん、オガールと田原地域は立地条件や規模も異なります、しかしながら田原地域の活性化に向けた手がかりが沢山あると考え、このたび四條畷市として10月9日10日に現地を視察することをご報告いたします。

なお、行政と一緒に視察をご希望される方がいらっしゃいましたら、実費になりますが事務局までご連絡下さい。

本部長： 今、支所長からありました説明について、ご存じの方もいると思いますが、お配りした資料番号6は都市計画図の用途地域を示した地図です。用途は非常に厳密なもので、用途によって建てられる建築物が決まっております。

地域から声も多いスーパーなどの商業施設の建設できる場所は地図のピンクの

部分で2か所しかありません。そのうち1か所はコンビニですので、商業施設を建設できるのは、中央の場所でしかできないこととなります。資料番号6-2はサンパルコ田原施設となります。みなさんご存じのとおり裏側に未利用地があります。この場所を既存施設と分割して使うのではなく、一体利用を行政として考えて行きたいと思っています。

しかし、用地取得するとなれば何億円、施設の建設となりますとまた何億円が必要となります。四條畷市の財政事情では非常に難しいところです。そこで事務局が調べて行きついたのが、このオガールプロジェクトです。ここは、簡単に言うと東京ドーム2個分の未利用地に税金を使わず図書館や体育館、スーパーを作った非常に稀有なプロジェクトです。

スキームは簡単で、先にテナントを決め、そのテナントの家賃収入を計算し、まちづくり会社が銀行から融資を受け開発を行いテナントからの家賃収入で返済をしていくという仕組みです。このように、金融機関と民間の力により成功している全国でも有名な事例です。

実は、大東市では職員をここに1年間派遣させ、戻ってきた職員を中心にこれと同じ仕組みでまちづくりを進めています。規模や立地条件は違いますが、このようなことが田原で、できないかと言うところで、私と事務局で視察に行かせてもらいたいと思っています。

皆さんをご招待する費用の捻出は難しいので、次回の会議では、学んできたことをプレゼンテーションさせていただきます。ここまでのことについて、質問等ございますか。

委員： 先ほどあった、配食サービスや居酒屋については第1種低層住居専用地域で行うことが可能なのか教えていただきたい。

支所長： 第1種低層住居専用地域は、いろいろと規制がありますので、商業地域で行うことが適しています。

本部長： 難しい話で、規制側の話になりますが、市だけで決められるものではなく、大阪府などとの協議のうえで行っていくこととなります。

委員： 7,000㎡の未利用地ですが、施設を建てるに当たり、ある程度高さが必要になると思います。容積率は200%、300%のどちらが適用されるのでしょうか。

本部長： 申し訳ないですが、次回の会議までに都市計画課で勉強させてもらいお答えしたいと思います。もし活用するのであれば、サンパルコ田原さんを巻き込んで、7,000㎡で切ると形も歪になることから、一体での活用を考えていただきたいと思っています。大前提として市有地でないので、難しいところはあります。

委員： あの場所の土地の値段は約2億円だと（看板に）書いてありました。地域の人などで出資を募り投資するような形にはできないでしょうか。

本部長： 住民の出資も募っていくことも一定必要あると思います。オガール紫波のスキームなどを見てください。地域住民の出資もひとつの方法かも知れません。

現実的な話をいたしますと「サ高住（サービス付高齢者向け住宅）」などの高齢者住宅としての買い手が多く、それは素晴らしい施設なのですが、唯一この地域に残された商業地域に何が地域として必要なかは、充分議論が必要だと思っております。我々に強制力があるわけではないですが、所有者と交渉をしていきたいと考えております。

委員： 本日、山本委員から提供いただいた資料を読んでおまして、過去の経過をいろいろと思い出していました。近商の撤退の時は、知らないところで話が決まっていました。今日、オガールへの視察をお聞きしました。考え方の段階から本部長が公表していくこのスタイルをこれからも大事にしていきたいと思っております。

本部長： 行政側として、実施することが決定していないものに対して公言することは、実際には難しいところです。今回はあくまで視察に行かせていただく中で、田原地域に活かせる点を学んできたいと思っております。交通の視察先でもあったように、情報の開示は非常に重要と考えています。活性化本部では、できる限り情報開示に努めてまいります。必要な資料等ございましたら、事務局でできる限り用意させていただきます。それでは事務局から今後の会議の進め方について説明をお願いします。

事務局： 今後の会議の進め方について、ご説明いたします。本日、議論していただいた「地域が主体となったまちづくり」について活発な議論が行われ、各班からの発表、意見交換がされて論点整理ができたものと思っております。

次回は、これまで学んできた内容及び議論してきたことを踏まえながら、本日の論点整理した内容を事務局から送付します。その中で委員それぞれが取り組める内容を決めていただき、次回会議では同じ方向性を持つ委員で班を構成し、より議論を深めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

本部長： 次回は、オガールプロジェクト視察の報告をさせていただき、皆様と共に田原地域で唯一残された商業地域について議論を進めたいと思っております。公共交通については、皆様の議論を取りまとめた形で四條畷市地域公共交通会議へ提言しました。

行政として大きな枠組みである、交通、商業施設はこのような形で取り組んでいくと同時に、次回の本部会議では、委員の皆様には活性化に向け小さな実践、小さな成功体験の部分は、これまでの議論の中で同じ方向性を持った委員で班構成を行い議論を深め、実践に向けて私たちが何ができるのかなど、より具体的に方向性を見出していきたいと思っております。

事務局： 次回の予定等も含めた日程を再度お伝えいたします。10月30日（火）19時からこの「なるなるホール」で「第6回田原活性化対策本部会議」を開催いたします。案件は、「オガールプロジェクトの視察報告」及び田原活性化本部会議のとりまとめに向けた「地域が主体となったまちづくり」を予定しております。

最後に、お手数ですが、机上に配布させていただいたアンケートにつきましては、ご記入していただき、お帰りの際に受付のピンクのカゴへ入れていただければと思います。

本部長： 委員の皆様、ご質問はございませんか。

本部長： 他に報告事項はないでしょうか？ないようなので、第5回田原活性化対策本部を閉じます。本日はありがとうございました。